

## カブトムシとクワガタムシ



せつめいどうが  
説明動画はこちら

※アクセスには<sup>きよはらひがししょうがっこう</sup>清原東小学校で使っている<sup>アイディー</sup>IDとパスワードでのログインが<sup>ひつよう</sup>必要です。

※<sup>きよはらひがししょうがっこう</sup>清原東小学校ホームページ、<sup>こうちょうせんせい</sup>校長先生のお部屋からもアクセスできます。

<sup>みなみさわせんせい</sup>南沢先生の特技は、<sup>とくぎ</sup>カブトムシやクワガタムシに<sup>たまご</sup>卵を産ませて、それを<sup>せいちゆう</sup>成虫まで育てる<sup>そだ</sup>ことです。目が見えなくても、<sup>め</sup>たくさんの<sup>しっぱい</sup>失敗を繰り返して、<sup>く</sup>できるように<sup>かえ</sup>なりました。

ところで、カブトムシとクワガタムシって、<sup>し</sup>どんなちがいがあるか、<sup>し</sup>知っていますか？  
<sup>み</sup>見た目だけでなく、<sup>め</sup>実はとても<sup>じつ</sup>たくさんのちがいがあります。<sup>みなみさわせんせい</sup>南沢先生はカブトムシとクワガタムシの<sup>りょうほう</sup>両方を<sup>そだ</sup>育ててみて、そのちがいを<sup>し</sup>知りました。

ここで<sup>きょう</sup>今日のクイズ。

<sup>め</sup>目の不自由な<sup>ふじゆう</sup>南沢先生が<sup>みなみさわせんせい</sup>卵から<sup>たまご</sup>成虫まで<sup>せいちゆう</sup>育てやすいのは、<sup>そだ</sup>カブトムシでしょうか？

それともクワガタムシでしょうか？

ア. カブトムシ    イ. クワガタムシ    ウ. どちらも同じ

<sup>こた</sup>（答えは次のページを<sup>つぎ</sup>読んで<sup>よ</sup>ね）

日本には数種類のカブトムシがいます。私たちの身近にいるのはヤマトカブトムシです。主に腐葉土や腐ったオガクズを食べて育ちます。

ヤマトカブトムシが卵から成虫になるまでの期間は、ほぼ1年です。6月から7月の間に成虫になり、オスとメスが出会い、卵を産みます。成虫は、上手に飼うと、12月頭くらいまで生きますが、冬を越えることはありません。

オスとメスのカブトムシを、腐葉土や腐ったオガクズをたっぷり入れた飼育ケースで飼うと、メスが卵を産み、幼虫が生まれます。幼虫は1か月くらいで、大人の小指ほどの大きさになるので、一匹ずつ手探りで拾い出して、個別に育てます。

クワガタムシは日本に10種類以上います。その中には、オオクワガタやコクワガタのように成虫で何年も生きるものもいれば、ノコギリクワガタやミヤマクワガタのように、ワンシーズンしか生きられない種類もあります。

ほとんどの種類は、メスの成虫が硬めの木に穴を掘り、そこに卵を産みます。でも、飼育ケースに入る大きさの木では、幼虫はうまく育ちません。幼虫は木を割って、一匹一匹傷つけないように掘り出して育てる必要があります。

木から幼虫を掘り出す作業は、目の見えない南沢先生にはできないので、目の見えている人をお願いします。

ということで、目の不自由な人が育てやすいのは、〈ア〉のカブトムシでした。でも実際に育てやすいのは日本のカブトムシで、一年中温かい地域に棲むヘラクレスオオカブトムシを成虫まで育てるのは、とても大変です。

四季のない地域のカブトムシは、卵から成虫になるまでの期間が決まっていないため、いつ蛹になるか、いつ成虫になるか見極めることが難しいのです。しかも蛹の期間が約2か月と長く、その時に掘り出してしまうと、成虫になれる可能性がとても低くなります。

自然の中で、一匹の虫が生きていくことは、とても大変です。せっかくの夏休みです。是非みなさん、身の周りの小さな生き物に目を向け、虫の音に耳をかたむけ、命の不思議や尊さについて、じっくりと考えてみてください。